



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO KITA

1070 TOKYO YMCA 2-2-20 TOYO KOTO-KU TOKYO 135-0016, JAPAN Tel.03-3615-5562
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS, CHARTERED 1980



2022年 11月 No486

K・C・サミュエル (インド) 国際会長主題：「フェロ・シップとイパの外で次の100年へ」
 フェン・ミン・チン (台湾) アジア太平洋地域会長主題：「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

佐藤重良 (甲府 21) 東日本区理事主題：「未来に向けて今すぐ行動しよう」

工藤大丈 (東京ベイサイド) 関東東部部長主題：「新規技術を縦横に駆使し、効率を重んじる」

磯部成文 東京北クラブ会長主題：「“明るく・楽しく・朗らかに” 40年を語ろう！」

会長；磯部成文 副会長；村杉一榮 書記；小仁恵子 会計；磯部幸子 担当主事；熊沢佳代

今月の聖句

ヨハネによる福音書 15章 5節

村杉一榮 選

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

第602回 11月例会プログラム

日時：2022年11月16日 (水) 14:00~15:30

場所：日本基督教団浅草教会

内容：会員卓話 磯部成文

卓題「明るく、楽しく、朗らかに」
 40年+25年を語ろう

・ハッピーバースデー

11/9 菅谷 功 11/15 神谷 邦子

今年度は東京 YMCA プログラムへの協力を継続する、また小松康広担当主事から新たに担当となった熊沢佳代主事から YMCA の近況報告を例会でお話しいただきます。長年にわたって良いつながりを持たせていただいた興望館で例会をもつことにします。清泉 YMCA との協働を継続したいと思っています。

2020-2021年度はコロナの影響で例会はほとんど行われませんでした。2022-2023の新年度を迎え7月、8月は例会中止を余儀なくされましたが、9月はようやく600回例会を開催することができました。顔と顔を合わせての例会の会話は誰もがニコニコ顔でした。

例会日：毎月第三水曜日、午後2時から4時までを予定しています。

例会場：浅草教会

我々東京北クラブは、ワイズメンズクラブ国際協会100周年まで楽しく頑張って参りましたが、2023年6月30日をもって41年間の活動、働きを閉じることいたします。親クラブである東京グリーンクラブはじめ、40年の長きにわたりご指導いただき、たいへんお世話になった東日本区、関東東部、在京ワイズ、DBCの仙台青葉城クラブ、社会福祉法人・興望館、清泉YMCA、そして例会場を提供して下さった数々の会場や現会場の浅草教会の皆様、メンバー一同心から感謝を申し上げます。クラブ活動を終える2023年6月30日以後は東京北クラブの活動を通してご縁のあった皆様と誰もが気楽に語り合える場を大切にしていきたいと考えています。

会 員：磯部成文、磯部幸子、神谷邦子、熊沢佳代、小仁恵子、篠澤忠彦、村杉一榮

広義会員：有里公德、金 秀男、菅谷 功、羽田真治
 休会会員：笠井達夫

2022-2023 東京北クラブ会長あいさつ

会長 磯部成文

東京北ワイズメンズクラブは、1980年11月20日、東京YMCAを会場に設立総会を行い日本のワイズメンズクラブとして72番目のクラブとして誕生しました。東京北クラブ設立の目的は、台東区、墨田区、荒川区などの「東京の下町にYMCA活動を広めよう」でした。以来、今日までの40年の活動の歩みを「40周年記念誌」にまとめることができました。

41年目の標語は“明るく・楽しく・朗らかに”40年を語ろう！です。40周年記念誌をひも解きながら、振り返りながら会員同志が、ひとりひとり楽しく語り合うことにします。また40周年を機会に旧会員に参加していただき卓話、近況をお話しただこうと計画しています。

10月在籍者	10月出席者	出席率	B F等ポイント	ニコニコボックス
会 員 7名	会 員 6名	54%	月分	10月分
広義会員 4名	広義会員 0名	メイクアップ	切手 0g	0円
	メネット	名	現金 0円	本年度累計
	ビジター	月修正出席率	本年度累計	38,000円
合 計 11名	ゲスト 名	%	切手 0g	
	合 計 6名		現金 0円	

第 601 回 10 月例会報告 熊沢 佳代

日時：2022 年 10 月 20 日（木）14：00～16：00

場所：社会福祉法人 興望館

内容：卓話「興望館の近況と今後」

コロナの感染拡大以降 3 年ぶりに興望館へ訪れ、例会を行いました。職員の皆さんと元気に再会できた喜びから笑顔あふれる中、会長の開会点鐘で始まりワイズソング、お祈り。そのあとより、野原館長をはじめ、興望館職員 3 名より、写真も交えて近況報告を受けました。

野原館長より：これまで長きに渡る北ワイズとの関係についてお話下さいました。中でも北ワイズが落語会を行ってくれたことが大きなきっかけとなり、その後の興望館での活動がより活発になっていったこと。そしてそれが今日の興望館の地域貢献活動につながっていることなどお話しいただき、北ワイズとの関りの深さを改めて実感しました。

地域活動部担当の内海さんより：この夏にコロナ以降久しぶりに夏キャンプが行われたことや、コロナ禍での学童クラブの様子など、それぞれ写真を交えた報告がありました。学童クラブでは消毒作業が増え、職員が大変な思いもしていたところ、子どもたちがそれを率先して手伝ってくれるようになり、『興望館女子お手伝いクラブ』が立ち上がったとのこと。それをプログラム化してご褒美カードを作り大好評。大変なことを喜びと感じて、楽しめるような工夫をすることで、奉仕への気持ちを自然と養うことができたこと、報告下さいました。

保育部担当の須田さんより：乳児から幼児の日常について写真を交えて普段の様子など教えて頂きました。コロナ禍で不安の多い中でも、保護者の皆さんが安心してお子さんをお預けいただけるためにも、職員が孤立することがないように、職員のチーム力を上げていくように日々奮闘されていることなどお話し下さいました。写真については保護者会でも好評で、興望館での日常から子どもたちの成長の様子がより伝わるよう、写真を活用するようにしているとのことでした。

給食部担当の石垣さんより：年齢に応じた給食の違いや、季節や行事での特別給食など、写真を通して色々を見せていただきました。どの食事からも丁寧で作られている感じがよく伝わり、どれも美味しそうでした。完食率も高く保護者からも好評を得ているとのこと。最近アレルギー食への対応も大変だが、いかなる場合も安心して食べてもらえるように努力することや、給食部スタッフの経験値の違いもあるが、それにより味が劣ることがないようにしていることが話されました。手作りの食事にこだわりを持って、日々頑張っていることがよく伝わる報告でした。

*** 清泉女子大学 YMCA 近況報告 ***

22 年度代表 河野 奏海

清泉 YMCA での最近の活動としましては、コロナの感染拡大防止のため、ボランティア活動がなかなか出来ない状態が続く中ですが、ゴミ拾い甲子園 in 埼玉に参加、毎月のホームレスへの炊き出しをしております。特にゴミ拾い活動では、実際に埼玉でゴミ拾い活動をされている方からお話を聞き、質問することも出来ました。これは燃えるゴミなのかどうか、落ちているゴミの傾向など、活動を通して実際に声に出すことでより明確に問題意識を持てるようになりました。

また、清泉 YMCA 内では現在二年生 17 人一年生 10 人、計 27 人で活動しています。活発的な新入生が増え、ボランティア活動を行いたいという声が出ていました。私もコロナ禍以前のようにさまざまな交流ができたから良いと思います。

常務理事大江さんと地域活動部施設長萱村さんからもご挨拶をいただきました。萱村さんは、「興望館祭りなど行事を行う度に北ワイズから学びえたボランティアスピリッツについて考えを深めることが出来ている。これまでの関りを継承していきながら、自分たちでももっと面白いことを考えて多くの人たちを巻き込んでいけるようにしていきたい」とおっしゃっていました。

また大江さんは、「神戸 YMCA 時代に震災で被災者支援を行っていた経験もあり、人とのつながりの大切さをずっと思っていたが、この興望館ではその時の思いを改めて感じる事が多くあり、北ワイズと興望館のつながりの強さもその一つとなっている」と話して下さいました。

そして途中からは旧職員の片倉さんも参加くださり、北クラブとの懐かしい思い出等、聞かせて下さいました。

時間内では語りつくせないほどに、互いを大切にしていることが再確認できた例会となりました。

最後にワイズ内での確認事項、YMCA 関連の報告があり、興望館の方も一緒に YMCA の歌を歌い、村杉副会長の閉会点鐘で終了となりました。

出席者：（東京北）磯部・幸子、神谷、熊沢、小仁、村杉

（興望館）野原、大江、石垣、須田、内海、萱村、片倉



*** 興望館だより ***

後藤 敬一

10 月 22 日（土）近隣の押上小学校の校庭を借りてプレイデーを行いました。昨年度は幼児 3 歳～5 歳クラスごとの入替制での開催でしたが、今年度は、三学年合同での開催となりました。子どもたち、保護者の方たちにとって、それぞれの年齢ごとの活動内容の変化が見られる貴重な機会となりました。従来行ってきた法人全体でのプレイデーには遠く及びませんが、子どもだけでなく、大人も含めた参加者全員が楽しむという「プレイデー」の名にふさわしい会となりました。

YyYyyYyYyYy YMCA ニュース YyYyyYyYyYy

- ① 1922 年 10 月にはじまった「早天祈祷会」が 100 年を迎えたのを記念し、10 月 3 日に「早天祈祷会/100 年記念交流会」を行い、39 人が参加した。交流会では、齊藤實氏（元東京 YMCA 副総主事・YMCA 史学会理事長）より歴史資料や写真を交えながらお話をうかがい、100 年の歴史を振り返る時間を持った。
- ② 「第 36 回インターナショナル・チャリティーラン」は、今年も歩数計アプリを利用したウォーキングイベントとして開催。10 月 15 日～30 日の 15 日間で、824 人が参加した。